



みんなで力を合わせて、

きのと小

燦

だより

子どもの方をしっかりと向いて、大事に大事に育てましょう

平成28年 4月28日
学校だより第2号
胎内市立きのと小学校
<http://tainai-ed.nxc.jp/kinoto-es>



当たり前のことを褒めて育てる

校長 佐藤新一

天気が続き、1年生も学校生活に徐々に慣れてきてなかよし広場で元気に遊んでいます。応援団が決まりました。これから本格的に運動会の練習が始まることとなります。

4月20日は「1年生を迎える会」がありました。それはとても素敵な会になりました。

体育館の入り口から入場準備OKの合図があり、進行係の「1年生が入場します。拍手で迎えましょう。」のハリのある言葉で始まりました。笑顔の6年生が嬉しくてたまらないという1年生と手をつないでの入場です。2年生のはじめの言葉は元気で工夫があり、聞いている者を楽しませてくれます。それを聞く子どもたちの様子も素晴らしかったです。騒ぐ人は誰一人としていません。しっかり聞いて会を成功させようという気持ちが見て取れました。1年生のあいさつもかわいくて微笑ましいものでした。

なかよし班のゲーム『人間知恵の輪』。見本を示した運営委員会は、堂々と大きな声でみんなに分かるように説明や演技をしてくれました。その後の班でのゲームも6年生がうまくリードしていました。素晴らしかったの一言です。これを見せられた私は、最後の話で、拍手と歓声を送るしかなかったです。

終了後、6年生の江端先生が運営委員会を集めて、「とてもよい会になったこと。それは、みんなが1年生のために与えられた以上のことをした成果であること」を伝えていました。私もその場に行って、松本先生や担当した先生方と一緒に成功の陰にある努力を讃えました。順調なスタートを切った青空児童会でした。

子どもたちが教室に戻る途中の廊下では、教頭先生や藤原先生、他の先生が、「〇〇さんの司会、△△さんの説明、□□さんのあいさつとてもよかったよ。」と伝えていました。みんなにここです。各教室でも子どもたちは「みんなで協力して成功させたね。」と、きっと担任から言われたと思います。

先般、来校された胎内警察署生活安全課長さんとお話をしている時のことです。

「きのと小学校区で子どもたちとすれ違うことがありました。その時、こちらがする前に、子どもたちの方から挨拶をしてくれました。初めおどろきました。地域のみなさんがいろいろ取り組んでもいてくれるし、こちらが嬉しくなった時間でした。」とお褒めの言葉をいただきました。先生や家の方がいなくても、きちんとできる子がたくさんいるということです。毎日の挨拶が習慣化され、このような嬉しい出来事となったのです。

成功させるために努力を厭わず、協力できる子どもたちであることが窺えた「1年生を迎える会」。自然に挨拶のできた地域での出来事。これが子どもたちの力です。いい姿が表れた時やできなかったことができた時には大いに褒め、一緒に喜びたいと思います。ご家庭でも地域でも、当たり前のことでも褒めて育てていきましょう。大人の私たちも手本を示しつつですが、よろしくお願いします。

さあ、運動会やこれからの行事が楽しみです。

